

研 究 論 集

第十二卷 第二号
第十 三 卷

前 回 目 次

(第十一卷 第二号)
(第十二卷 第一号)

無 碍 一 道 論	松 永 大 覚	1
六人部是香の著書・手拭本について	田 中 重 太 郎	9
初期の慶派について (続)	久 納 慶 一	19
音楽を理解するということについて	酒 井 醇	43
Prokofieff, 5 Melodies op. 35 bis 1920 (1925) Sergei Sergeievitch Prokofieff	神 前 百 代	53
ブラウス地と裏地の滑りについて	神 田 美 年 子	55
服 装 史 よ り	中 野 慎 子	55
糖の食品への浸透について (第三報)	山 本 登 美 子	65
紀 行 ヨーロッパかけ足旅行日記より	高 小 原 国 彦	77
書 評 老年学の動向	橘 嘉 納 愛 子	85
今日のアメリカの高等学校	荒 井 貞 勝	29
岸 本 英 夫 著 「宗教学」	岡 邦 俊	33
玉 上 琢 弥 著 「源氏物語評釈 第一卷」	田 中 重 太 郎	34

彙報

計 報

石倉小三郎 元教授 (音楽史・ドイツ文学・ドイツ語)



昭和40年10月30日、鎌倉の自宅にて逝去された。享年84才。

先生は、旧制東京音楽学校、旧制四高、八高、七高の各教授、高知高等学校長、大阪高等学校長などを歴任され、戦後大阪理工科大学・近畿大学の教養科長を経て、昭和27年旧制相愛女専音楽科長として就任、同28年相愛女子短期大学教授、初代音楽科長、昭和33年以後は大学一般教育科長として、永らく本学のために重責を果され、昭和40年3月を以て退職された。

なお先生は、ドイツ文学者としての立派な業績と共に、音楽の方面でもシューマンの合唱曲「流浪の民」の訳詩などは広く世に知られているが、明治38年24才で日本初の「西洋音楽史」を著わされるなど、我国音楽学界の草分けの一人として、又戦後は、音楽学会関西支部長（初代）として大きく貢献された。

二十二 鉄 玄 教 授 (国文学)



昭和39年2月29日狭心症のため北野病院へ入院加療、9月28日退院、自宅静養、昭和40年4月から出講、10月8日病状悪化のため再び北野病院へ入院加療中のところ、11月17日午後1時19分肺癌のため逝去された。享年72歳。

先生は福岡県京都郡延永村のご出身で京大国文科を終えられ、鎮西女子専門学校教授を経て、昭和25年4月、相愛学園に赴任、昭和28年、短期大学国文科教授となられた。

また水滸派の歌人として、丹草二というペンネームではやくから活躍され、歌集に「にはとり」（合著）（昭和元年）、「蓼花集」（合著）（昭和4年）をはじめ、晩年自らその代表歌を選ばれた「白鳥抄」（水滸叢書第172篇）（昭和40年・初音書房刊）などがある。その他、『曾根好忠に就いて』（「水滸」昭和8年1月）の論文や、「明治大正短歌研究」（合著）（昭和6年）、「明治大正短歌評釈」（合著）（昭和9年）（いずれも水滸社刊）などの短歌研究に関する著述もあって、歌人と

して、また国文学者として、和歌の創作と研究とに生涯をささげられた。

山田耕筈 音楽学部長



病氣御療養中のところ、昭和40年12月29日、東京の自宅にて逝去された。享年79才。

年譜抄（本学に関する項のみ抄録）

明治19年6月9日
東京に生る。

昭和12年4月（51才）

相愛女子専門学校の顧問兼教授となり、ドイツよりシャビュイ、ハリヒ・シュナイダーを招へい、又ベルトラメリー能子、武岡鶴代、山ノ井基清等を教授に迎え相愛女子専門学校音楽科を創設、自らも指導に当る。

昭和18年（57才）

戦火の拡大と共に公私多端のため、相愛女専を一時退職。

昭和25年（64才）

今小路覚瑞理事長の招きにより、再び相愛女専の教授となる。

昭和28年（67才）

相愛女子短期大学教授に就任。

昭和30年10月（69才）

今小路学長と計り、井口基成、斎藤秀雄、伊藤武雄、池内友次郎の各教授を音楽科各部門の主任教授に迎え、本学園における音楽教育活動の全面的拡充方針を打ち出す。

昭和32年5月（71才）

文化勲章受賞（昭和31年）記念祝賀会が本学園に於て開催さる。

昭和33年4月（72才）

本学園に大学が設置されると共に音楽学部長に就任。同年5月本学園の創立70周年記念として制定の「相愛学園歌」を作曲。

昭和36年以降（74才）

本学音楽学部設置の意図に基づき、新しい仏教音楽運動推進のため「宗教音楽研修会」等の指導に尽力。

昭和40年12月29日（79才）

東京都世田ヶ谷区成城町の自宅にて午前7時50分逝去。なお、昭和41年1月11日東京築地本願寺に於て営まれた葬儀には本学学生よって編成された聖歌隊が参列。

昭和41年1月23日午後2時

本学園に於て「学園葬」を挙る。

彙 報

今小路 覚 瑞 学 長

11月3日(昭和39年)大阪府知事より教育振興に功績のあった故をもって表彰される。

一般教育・教職

岡 邦 俊 教 授

昭和40年5月30日東京駒沢大学に於て行われた日本印度学仏教学会第16回学術大会にて発表の論文「大乘仏教に於ける積尊の地位」——特に宗祖との関連に於て——

荒 井 貞 雄 教 授 (教育学)

教育実習資料綴(集中実習編と継続編)実習手帳改訂したもの。(昭和40年4月刊 藤原印刷所)

橋 覚 勝 教 授

- 昭和40年4月13日より17日まで、東京のヒルトンホテルで開催の第3回汎太平洋リハビリテーション会議(Pan-Pacific Rehabilitation Conference)の老人厚生部会で、「心理学的ならびに社会学的立場からみた老人の社会復帰」(Rehabilitation for the aged persons from psychologic and sociologic standpoint)を発表した。
- 同年10月11日から14日まで、アメリカのロスアンゼルスで開催せられた国際老人協会(International Senior Citizen's Association)の第2回大会に出席のため、夫人同伴10月8日羽田空港発、会議後ロスアンゼルス、サンフランシスコ、パークレー、ホノルルの別院、仏教団本部、教会を歴訪し、同月廿日帰朝、当会議では「日本における老人福祉と老人クラブ活動の現況」(Recent tendencies of old people's welfare and their club activities in Japan)について英語通訳、ならびに「日本における嫁と姑」(Young wife and mother-in-law in Japan)について特別講演を行った。
- 同年10月31日、11月1日の両日、仙台で開催の日本老年学会第4回総会に出席、「独居老人の意識調査」について、その一部を分担発表した。

新 任 (専任者のみ)

小 谷 泰 造 講 師 昭和40年4月より

英語担当

山 野 正 二 講 師 同 上

法学担当

大阪府研究助成金下附

大阪府より相愛学園教職課程研究室に5万円の研究費交付。目下、大阪市立中学校における道徳教育の実状について研究進行中。

教育職員免許状下附状況

学科別	卒業生数	免許状種類(教科別)		
		高 二	中 一	中 二
音楽学部	6 5	音楽 59	音楽 59	
国 文 科	7 0			国語 56
家政科	食物専攻	9 5		家庭保健 72
	被服専攻	1 3 9		家庭保健 88

音 楽 学 部

仲 芳 樹 教 授 (音楽学・音楽理論)

東洋音楽学会理事(昭和40年~42年度)に選出された。

片 岡 み どり 教 授 (ピアノ)

日本婦人対外文化交流連合会の文化使節として7月20日出発

ソ聯(ナホトカ→ハバロフスク→モスクワ→レニングラード→キエフ→ソチ→モスクワ)ここで一行(イルクーツク方面に向った)と別れ欧州(下記)を訪問した。

欧州(コペンハーゲン→デュッセルドルフ→ミュンヘン→ザルツブルグ→ウィーン→ミラノ→ヴェニス→ローマ→ブルッセル→デュッセルドルフ→パリ)→8月29日帰国

酒 井 諄 助 教 授 (音楽学・音楽美学)

音楽学会理事(昭和39年度秋期~41年度秋期)に選出された。

音楽学会第16回全国大会(40.10.19~20東京)にて研究発表「音楽大学生のヴィジョン——傾向性の調査」

彙 報

佐藤 允彦 講師 (音楽学・音楽史)

昭和40年2月20日、ポーランドのショパン協会より、「国際ショパンピアノコンクール」の審査員オブザーバーとして招へいを受け、ワルシャワに赴き4月12日帰国。

新任 (専任者のみ)

小野 功竜 講師 昭和40年4月より
音楽学, 雅楽演習, 宗教音楽論担当。

演奏活動 (リサイタルのみ——開催順)

- 伊奈 和子 講師 (ピアノ)
40. 3. 23 東京一日経ホール
- 美馬千鶴子 助手 (ピアノ)
40. 3. 23 大阪—御堂会館
- 徳末 悦子 教授 (ピアノ)
40. 6. 10 大阪—毎日ホール
(京響によるジョイント・リサイタル)
- 大北 路子 助手 (ピアノ)
40. 7. 21 大阪—日立ホール
- 坂本 滉子 助手 (ピアノ)
40. 10. 14 大阪—御堂会館
- 徳末 悦子 教授 (ピアノ)
40. 10. 26 福井—県民会館
- 伊奈 和子 講師 (ピアノ)
40. 11. 16 大阪—毎日ホール
- 津曲 滋子 助教授 (ピアノ)
40. 11. 17 京都—京都会館

昭和39年度卒業論文 (音楽学専攻)

- 荒川 直子「J.S.バッハの平均率ピアノ曲集第1巻——フーガのアナリゼを伴う構造の一考察」
- 荒木満智子「ロマン派音楽と〈夜想曲〉の先駆者ジョン・フィールドについて」
- 栗生 道江「カンタータに見るバッハ観」
- 下村 京子「イタリールネッサンスに於けるフロットーラについて」
- 田中 允子「第二倍音・第三倍音が音色に及ぼす影響について」
- 中嶋 久子「調の性格における因子の分析的研究」
- 渚 晴美「イタリーに於けるバロックソナタに就いて」
- 仁村 益子「ピアノの音色について」

沼野 淳子「中学生の読譜力調査から見た音楽教育の問題点」

前田 結子「雅楽の分析—竈笛による旋律を中心として」

松浦 敏子「現代タイ国の楽器とその歴史」

松本登起子「ヘンデルのクラヴィーア・フーゲについて——アナリゼ研究」

松吉佐起子「ワルツの歴史——ヨハン・シュトラウスの出現まで」

三宅寿美子「広告における音楽の位置」

昭和39年度卒業演奏会 40. 3. 22 相愛講堂

- 山口 文子 (ピアノ)
Saint-Saens : Toccata
- 平野真智子 (ソプラノ) 伴奏 山東 越子
Puccini : Tu che di gel sei cinta (Turandot)
- 中田 喜直 : 髪
- 松本 典子 (ピアノ)
Brahms : Sonata op. 2
- 岡田 綾女 (ソプラノ) 伴奏 松本 典子
Verdi : Ritorna Vincitor (Aida)
- 山田 耕筈 : みぞれに寄する愛の歌
- 市原 栄子 (ピアノ)
Chopin : Polonaise-Fantasia op. 61
- 酒井紀恵子 (ピアノ)
Prokofieff : Troisième Sonate op. 28
- 赤星 恵美 (ソプラノ) 伴奏 吉田 悦子
Verdi : O don fatale (Don Carlos)
- 石渡日出夫 : 鹹 湖
- 山東 越子 (ピアノ)
Chopin : Ballade op. 52
- 川村慶子 (ソプラノ) 伴奏 山東 越子
フルート助奏 品川 伶子 (在学生)
- Donizetti : Scena della Pazzia
- 清水 脩 : 落葉のように
- 吉田 悦子 (ピアノ)
Chopin : Etude op. 25 No. 7
- Ravel : Alborada del Gracioso

昭和40年度開講科目・講義題目 (音楽学部)

<一般教育科目>

- 宗 教「宗教概説」 岡 邦俊 教授
- 〃 「仏教概説・歎異抄」 松永 大覚 教授
- 〃 「 同 (続講)」 松永 大覚 教授
- 〃 「真宗概説・親鸞聖人の思想と信仰」 岡 邦俊 教授

哲学「哲学概説・哲学史」	海辺 忠治	教授
文学「文学概論」	田中重太郎	教授
歴史	木場 集蔵	講師
法学「法学概論・日本国憲法」	山野 正二	講師
経済学	河村 宜介	講師
化学	塙 雅寿	教授
生物学	中村 治	講師
生活科学	大屋 拳吾	講師

<外国語科目>

英語(1), 英語(2), 英語(3) (英書講読)	小谷 泰造	講師
英語(4) (楽書講読)	久納 慶一	講師
英語(5) (楽書講読)	佐藤 允彦	講師
ドイツ語(1), ドイツ語(2)	渡辺美英子	講師
ドイツ語(2)	斎藤芙美子	講師
ドイツ語(3) (楽書講読)	久納 慶一	講師
フランス語(1), フランス語(2)	木村 恵子	講師

<保健・体育科目> (略)

<専門教育科目> (講義・演習関係)

各学科・専攻 共通		
音楽理論 (楽式論)	仲 芳樹	教授
同 (音楽通論・和声法)	大橋 博助	教授
同 (和声法)	山田光生	講師, 辻井英世
同 (管弦楽法)	池内友次郎	講師
音楽史 (西洋音楽史概説・ロマン派の音楽)	佐藤 允彦	講師
音楽史 (日本の音楽と文学)	平野 健次	講師
音楽美学 (音楽美学概説)	酒井 諄	助教授
宗教音楽論	小野 功竜	講師
音楽心理学	梅本 堯夫	講師
音楽音響学	北村 音彦	講師
楽器論	池内友次郎	講師
比較音楽学	岸辺 成雄	講師
演奏解釈	斎藤秀雄	教授・徳丸聡子
音楽学専攻 (上記以外)		
音楽理論概説	仲 芳樹	教授
音楽学概説	酒井 諄	助教授
音楽理論演習 (各年次)		
	仲 芳樹	教授, 大橋博助
	山田光生	講師, 辻井英世
西洋音楽史特殊講義	吉田 秀和	講師
西洋音楽史演習 (各年次)	佐藤 允彦	講師
東洋音楽史演習 (3, 4年次)	平野 健次	講師
音楽美学演習 (2, 3, 4年次)	酒井 諄	助教授
音楽心理学演習 (3, 4年次)	梅本 堯夫	講師
古楽演習 (雅楽)	小野撰竜	講師, 小野功竜
同 (バロックアンサンブル)	喜田 賦	講師

<専門教育科目> (実習・実技関係)

各学科・専攻共通	
ソルフェージュ	宮越精三郎
	教授, 白石勝子
	助教授, 水谷堅助
	教授, 品川三郎
	講師, 木川田誠
	講師, 柳瀬徹
合唱	林雄一郎
	講師
合奏 (I オーケストラ)	斎藤秀雄
	教授, 東儀祐二
	助教授, 森正
	講師, 徳丸
	聡子
	講師
合奏 (II 教職課程のための器楽合奏)	品川三郎
	講師
指揮法	東儀祐二
	助教授, 徳丸聡子
	講師
伴奏法	伊奈和子
	講師
声楽	柴田陸
	教授, 嘉納愛子
	教授, 鈴木田鶴子
	教授, 山田真梨子
	教授, 栗本尊子
	教授, 白石勝子
	助教授, 水谷堅助
	教授, 荘田作
	助教授, 稲垣孝子
	講師, 柳瀬徹
	講師, 木川田誠
	講師, 田中万美子
	講師, 門屋
	菊子
	講師, 中村幸子
	講師, 伊藤亘行
	講師, 伊藤京
	子
	講師, 横川美智子
	助手
器楽	
ピアノ	井口基成
	教授, 矢田咲子
	教授, 片岡みどり
	教授, 徳末悦子
	教授, 志賀宗三郎
	助教授, 石橋信子
	助教授, 津曲滋子
	助教授, 出口美智子
	講師, 川村明子
	講師, 西川恵美子
	講師, 伊奈和子
	講師, 井口愛子
	講師, 小林とし
	講師, 市川伸子
	講師, 内田胎子
	講師, 福島晴子
	講師, 坂本滉子
	助手, 大北路子
	助手, 滝川栄津子
	助手
ヴァイオリン	辻久子
	教授, 東儀祐二
	助教授, 西田秀雄
	助教授, 鷲見三郎
	講師, 東儀幸
	講師, 吉永清子
	助手
セロ	井上頼豊
	講師, 日比野忠孝
	講師
ハープ	張谷恭子
	講師
フルート	川口勝治郎
	講師, 森正
	講師
クラリネット	喜田賦
	講師, 北爪利世
	講師
ファゴット	三原泰三
	講師
打楽器	大橋博助
	教授
オルガン	

久保田清二助手

<教職に関する専門科目>

教育原理	荒井 貞雄 教授
教育心理学・青年心理学	橋 覚勝 教授
教科教育法(音楽)	品川 三郎 講師
教育実習	荒井 貞雄 教授
道德教育の研究	荒井 貞雄 教授

国 文 科

田中重太郎 教授(国語学・国文学)

監修書「新選大鏡」(昭和40年4月10日刊。初音書房) 編書「古文の演習と整理」(4月15日刊。同) 森本茂氏と共編書「国文法の演習」(6月5日刊。同) 著書「枕草子の風土」(9月15日刊。白川書院) 論文『六人部是香の著書・手沢本について』(本集第11巻2号・第12巻1号) 『枕草子の先行文学』(「国文学」第11巻第9号)

国文科文学遺蹟めぐり

国文科では、定例の文学遺蹟めぐりを左のとおりおこなった。参加者は、柿谷専任講師、鈴木、大橋両講師、永田助手をはじめ、1, 2年の学生150名(欠席者24名)で、観光バス4台を利用した。

10月28日(木)

万葉集文学遺蹟(大和飛鳥方面) 香久山一畝傍山一飛鳥大仏一石舞台その他。

家 政 科

神田美年子 助教授(被服学)

昭和40年度在外研修員の資格をもって、日本政学会欧米家政学視察団に参加、6月17日羽田発、欧州視察後、一行と別れて7月8日より40日間パリにて服飾研究。

8月16日渡米、マサチューセッツカレッジ・オヴ・アート、パーソンズスクール・オヴ・デザイン、マッコール社、ノースウエスタン大学、ウイコンシン大学、カリフォルニアインスティテュート・オヴ・ザ・アートス、ワードヴァリ大学、ハワイ大学等訪問、9月3日帰国。

私学研修福祉会に「欧米各大学における家政学(服飾関係)の教育内容と職業教育との関連性」の報告論文提出。

山本登美子 助教授(被服学)

7月28日より日本デザイン文化協会(NDK)より服飾視察旅行のためヨーロッパ各地(イギリス、オランダ、オーストリア、西ドイツ、スイス、イタリア、フランス)を訪問。

特にパリ・オートクチュールコレクションを見て廻り8月20日帰国。

免許証下附状況

栄 養 士 50名

図 書 館 だ よ り

図 書 館 長 更 迭

昭和26年以来の荒井館長は健康が勝れないため去る12月館長を辞任し、今小路学長が兼務することとなった。現在約4万冊の図書と170余種の季刊誌を蔵している。

相愛学園読書会の一時的中止

図書館が中心になって、昭和26年以来会を重ねること30回の相愛読書会は、高等学校3年生・短大・大学の在學生、卒業生、大学・短大・高等学校・中学校の教員、あるいは事務職員の志あるものが参加して楽しく過して来た。然し、今日ではクラブ活動、各種のOB会が盛んになって来たので、相愛読書会は当分の間休むことに決定した。

相愛図書館のユニークな文化活動として今日では高く評価され、十二分にその使命は果された。そのために努力された創立当時の館員、卒業生、その都度解説と指導にあたられた講師の先生方、また会の世話を忠実になされた館員に感謝と敬意をささげます。

(荒井館長)

第29回 相愛学園読書会記録

3月13日、相愛学園第2会議室に於て、第29回相愛学園読書会を開催。荒井、田中、柿谷、中野、森田、油本、永田、諸先生方並びに、学生を含めて30名の出席者である。今回のテキスト、イブセン著「人形の家」解説者、森田義延先生。真新しい第2会議室に春の光をいっぱい受け、明日は希望に満ちた卒業式とあって何んだか華いだ雰囲気である。午後1時30分、荒井先生の司会により開会、それに続いて、ものやわらかな口調で森田先生による熱心な解説が始まる。女主人公「ノラ」は、病気の夫を転地療養させるために、父の名を偽りして高利貸より借金をするが、やがて、こ

の事が夫の銀行頭取就任を前に、高利貸によって暴露されると、夫は感謝するよりも自分の前途を葬ったものとして、彼女を罵り、自分がこれまでただ「人形」として、かわいがられていたにすぎなかった事を知り、彼女は「妻である前に一個の人間として生きて行きたい」と、夫と子供を捨てて家出して行くストーリーであり、女性には、母性的・家庭的なものにだけ納まってしまうだけではものたりない、常に何かの努力が必要であると話された。この解説によって、「何故」「ノラ」が家出をしたか、自分が今「ノラ」の立場となった場合、どのような道を選ぶかについて討論を始め最後に、諸先生方の楽しい思い出話を聞かせて下さった。今回は、一泊で日本古典文学をテーマにして開催したい旨を決め、夕やみせまる午後5時閉会。

(甲田)

第30回 相愛学園読書会記録

7月31日、8月1日の両日、須磨観光ハウスにて、第30回相愛学園読書会開催。参加者 荒井、田中、柿谷、中野、永田諸先生方、並びに学生合せて47名。今回は日本古典文学をテーマとして、「堤中納言物語」の中より「虫めづる姫君」を選ぶ。解説者、田中重太郎先生、前方に瀬戸内海国立公園を一望に、又歴史に名高い須磨浦の山々を背にして、涼風とせみしぐれの中で、午後3時30分開会。先ず、田中先生より「虫めづる姫君」について解説され、この「虫めづる姫君」の作者は物語の冒頭に於て、美しい蝶を愛する姫君と、その隣に住む気味の悪い虫を好む姫君とを引き出し、異様な主人公の性格を大胆に述べて読者の関心を喚起し、又主人公姫君の口を借りて、物語の主旨を「人はまことあり、本地尋ねるこそ心ばへをかしけれ」と明瞭に言い切って、一見意地で、異常心理の持主だと世間から噂せられるこの姫君は、この信条を固持して物の表面だけに眩惑されて、その本地を認識しようとしぬ世間の俗説を却って罵っているのではと話され、途中、一度休憩し冷えたお茶で咽をうるほし、夕方近く迄時の過ぐるのを忘れる程であった。緑の芝生に名物陣屋鍋のテーブルを囲み、先生方と語り、又お友達と明日の予定等を話し合っ楽しい一時を過ごす。

夕食後、水銀燈の光に照らされ、荒井先生を中心に円形に椅子を並べ一人一人の自己紹介を行う。午後9時過ぎ自由時間となり、入浴をする人又はロープウェイ等で須磨浦公園に遊びに行く人達もあった。翌朝、希望者は教盛塚等を見学に行き、9時より中野、柿谷両先生の司会により前日の読書会の続きを行う。この作者は、何かの「意図」を持って書かれたものである

かについて、又作者は男性、女性両説のいずれかについて活発な意見をとりかわす、最後に荒井先生によって作成された「須磨浦あたり」他、多数のパンフレットを参考に解散後の打ち合せを行い、海水浴をする人は中野先生、日展に行く人は荒井先生、須磨浦一帯の歴史散歩を行う人は柿谷先生へと、それぞれのグループに別れ、須磨観光ハウスの前にて記念写真を撮り、なごりをおしみながら解散した。(甲田)

新 着 書 (主なるもの)

〔一般教育関係〕

著 者	書 名	出版年
田 辺 元	田辺元全集 15	昭和39年
辻 善之助	大乘院寺社雑事記 1~12	〃
高 橋 順次郎	大正新脩大蔵経 第3.5.49.62.82	〃
Murray, J.A.H.	The Oxford English Dictionary, Vol. 1~12	1961
井 筒 雅 風	袈 袈 史	昭和40年
大 島 正 光 編	アーゴノミクス (人間工学)	〃
慧 日 慈 光 師	再興賜紫大通上人行実年譜	〃
若 林 喜 三 郎	石川県の世態と風俗	〃
藤 田 美 実	人間性の倫理	〃
矢 島 羊 吉	倫理の根本問題	〃
岡 田 純一等 編	日本の風土とキリスト教	〃
W.パッサルゲ著 守 屋 謙 二 訳	現代における美術史の哲学	昭和39年

〔教職課程関係〕

	文部省第1~5年報	昭和39年
土 屋 周 作	思考陶冶の基礎としての動的教育論理学	〃
日 本 教 育 社 会 学 会 編	教育社会学研究 第19巻	〃
教 育 史 編 纂 会	明治以降教育制度発達史 2.3.5~10.13.14別巻	〃
文 部 省 調 査 局	わが国の教育水準 一昭和39年度一	〃
鎌 坂 二 夫	小原教育	〃
芝 野 庄 太 郎	ロバート・オーエンの教育思想	昭和36年
阪 本 一 郎	図説教育心理	昭和39年
道 徳 教 育 事 典 編 集 委 員 会	道徳教育事典	昭和40年
大 平 勝 馬	道徳教育の研究	〃
ハ ン ス ・ ヘ ル ヴ ェ ク	教育の根本問題	昭和39年

彙 報

村山貞雄 原典教育学 //

中脩三 脳髓の機能と教育 //

古市恵太郎 道徳教育の理論と方法 昭和40年

〔家政科関係〕

Hawthorn, J. Recent advances in food science, Vol. 1~2

石川正幸 薄層クロマトグラフィー 昭和38年

〔国文科関係〕

鈴木進編著 未刊国文資料 第3期, 第2.3別2 昭和39年

角田一郎 人形劇の成立に 関する研究 昭和38年

吉田幸一 和泉式部研究 1 昭和39年

岡村健三 芭蕉伝記考 昭和38年

延慶本平家物語 1~3 昭和39年

小松茂美 校本浜松中納言物語 //

山田正 万葉修辭の研究 //

窪田章一郎 西行の研究 //

柳田国男 定本柳田国男全集 27.28.30 31.別巻2~4 //

古文学秘籍複製会 源氏物語古註 昭和10年

竹岡正夫 富士谷成章全集 上・下 昭和36年

中田祝夫 あゆひ抄新注 昭和39年

永山勇 国語意識史の研究 昭和38年

国田百合子 女房詞の研究 昭和39年

平家物語長門本 1~20

新関西新聞社 木版画源氏物語 五十四帖 第1~54集

竹村俊則 新選京都名所図会 卷 6.7 昭和40年

久曾神昇編 日本歌学大系 別巻3 昭和39年

一方検校本平家物語 1~12 元和 7

中田祝夫 色葉字類抄研究 並びに索引本文編 昭和39年

岡西惟中 清少納言旁註 1~11卷

清少納言 1~4卷

枕乃草紙 上・下

空海 遍照發揮性靈集 卷第1 昭和13年

松尾芭蕉 幻住庵記 昭和40年

統群書類従完成会 群書解題 第5.18下 //

吉川理吉 三手文庫本 昭和26年

土岐武治校注 堤中納言物語

武田祐吉他編 国語国文学研究史 大成 1~15 昭和36年

山田孝雄 平家物語 昭和8年

丸山キヨ子 源氏物語と白氏文集 昭和39年

會根豊祐 源氏物語女性群像 第3巻 昭和40年

木下正俊 増補雅言集覽索引 //

久山善正編

ウルマン著 意味論 昭和39年

山口秀夫訳

田中重太郎 枕草子の風土 昭和40年

飯田季治 日本書記新講 中巻 昭和39年

菅沢文正 光電比色計の実際 //

田多井吉之介 ホルモンの科学 昭和39年

相磯和嘉他 食品衛生学概説 //

森雅央 食品の商品学 //

日本食品衛生協会 食品添加物の使用基準便覧 //

吉村寿人 蛋白栄養の理論と実際 //

食生活研究会 農村食生活実態調査 //

必須アミノ酸研究会 アミノ酸シリーズ 第1~5集 昭和37年

マツタケ研究会 マツタケ 一研究と増産一 昭和39年

懇話会

本山荻舟 飲食事典 //

大後美保他編 生活科学ハンドブック //

稲垣長典 強化食品学 昭和37年

箆山京 家庭管理学 昭和39年

川野重任 農業問題 昭和38年

厚生省公衆衛生局 栄養課 栄養三法解説 昭和39年

中山誠記 食料の経済学 昭和40年

有本邦太郎 三訂栄養概論 昭和39年

科学技術庁資源調査会 科学技術庁資源局 産業労働のエネルギー代謝率 昭和36年

都築洋次郎 糖類 昭和39年

戸荻義次 食品材料 //

赤土正美 染色加工学概論 //

沢崎千秋他 特殊栄養学 昭和40年

山下泰正 要説栄養学 昭和39年

大川徳太郎他 食品材料学 昭和40年

山口正城 塚田正城 デザインの基礎 //

日本食品衛生協会 中性洗済と食品衛生 //

〔音楽学部関係〕

Analecta Musicologica, Bd.1~2 1963,1965

Schäfer, R. Geschichte der Musik-ästhetik in Umrissen 1964

Hughes, D. A. Early medieval music up to 1300 1955

〃 Ars Nono and the renaissance 1960

Sachs, C. Music in the Middle Ages 1940

〃 Music in the renaissance 1954

Schwertzer, A.	J. S. Bach, Vol. 1~2	
Spitta, P.	J. S. Bach (4.Aufl.)	1954
Geiringer, K.	Brahms (2.ed.)	1948
Einstein, A.	Mozart	1959
〃	Schubert	1951
〃	The Italian Madrigal, Vol.1~3	1949
Sachs, C.	The History of musical Instruments	1940
	Enciclopedia della musica, Vol.3~4	1964
Blume, F.	Die Musik in Geschichte und Gegenwart, Bd.10.11	1963
Burney, C.	Dr. Burney's Musical tours in Europe, Vol.1~2	1959
Kochel, L.	Chronologisch-Thematische V. Z. von Mozart	1958
吉川 英 史	日本音楽の歴史	昭和40年
諸井 三 郎	楽式の研究 1~3	昭和36年
F. ドリアン 著 福田 昌作 訳	演奏の歴史	昭和40年
D.J. グルト 著 服部 幸三 訳	オペラ史 上・下	昭和33年
ウイリ・アーペル 著 服部 幸三 訳	ピアノ音楽史	昭和40年
井口 基 成	上達のための ピアノ奏法の段階	〃
供田 武嘉津	世界音楽教育史	昭和33年
小川 昂	本邦洋楽係関図書目録	昭和40年
角倉 一郎 他	大音楽家、人と作品 1~3	昭和39年
音楽之友社	名曲解説全集 1~18	昭和40年

編 集 後 記

経費の関係で2回の刊行は無理であるので、しばらく年刊として発行することに、4月の編集委員会で決定。

本号から、学内の声もあって、イマイ印刷で印刷することになった。今まで京都の協和印刷に厄介になって来た。ここに感謝の意を表します。

本号には、老人心理学の権威、橘教授の玉稿をはじめ、国文学の柿谷講師の精緻なる研究、事務局の草部先生の貴い原稿、法学の山野、雅楽の小野の各新任専任講師の新鮮な稿に加え、永田、山口の両助手の研究を掲載出来たことはうれしい。既に何回も発表された富田、岡、荒木、佐藤、伊奈の諸先生の論文に石倉先生の遺稿を次号にわたって連載出来ることは、本誌に花を添えた観がある。ただ、音楽実技のソノシートが間に合わなかったことは残念至極。

今小路現学長を中心に、焼野原から起きあがって、僅か十数年の間に今日の如き一流音楽大学、短期大学実現までの道は、まことにきびしく、多くの人々がえらばれてその尊い礎石になっていることを容易に想像することが出来る。昭和四十年年度内に、石倉、二十二山田の三巨石が相ついで沙羅の木蔭から消えた。吾等痛惜の極み。けだし、この良き僚友、先輩の霊は永久に相愛と共にあるであろう。(荒井)